

Express5800シリーズ用に用意されているソフトウェアについて説明します。

添付のCD-ROMについて(→118ページ)	.Expressワークステーションに添付のCD-ROM 「EXPRESSBUILDER」に収められているソフト ウェアについて紹介します。
EXPRESSBUILDER(→119ページ)	セットアップツール「EXPRESSBUILDER」につ いて説明します。
ExpressPicnic (→124ページ)	シームレスセットアップ用パラメータディスク (セットアップパラメータFD)を作成するツール 「ExpressPicnic」について説明します。
Express本体用バンドルソフトウェア(→131ページ)…	Expressワークステーションにインストールする バンドルソフトウェアについて説明します。
管理PC用バンドルソフトウェア(→143ページ)	Expressワークステーションを監視・管理するた めの管理PCにインストールするパンドルソフト ウェアについて説明します。

添付のCD-ROMについて

添付のCD-ROM[EXPRESSBUILDER®]には、Expressワークステーションを容易にセットアップするためのユーティリティや各種パンドルソフトウェアが収録されています。これらのソフトウェアを活用する ことにより、Expressワークステーションの機能をより多く引き出すことができます。



CD-ROM[EXPRESSBUILDER]は、Expressワークステーションの設定が完了した後でも、OSの再インストールやBIOSのアップデートなどで使用される機会があります。なくさないように大切に保存しておいてください。





ビルド・トゥ・オーダで購入した装置のハードディスクには電源管理をするユーティリティ 「PowerChute *plus* Ver. 5.11J/5.2J」がインストールされている場合があります。141ページ を参照してセットアップをしてください(このユーティリティはEXPRESSBUILDERの中に は含まれていません)。

EXPRESSBUILDER

「EXPRESSBUILDER」は、Express5800シリーズに接続されたハードウェアを自動検出して処理を進める セットアップ用統合ソフトウェアです。EXPRESSBUILDERからシームレスセットアップを使用する際に は、OSをインストールするハードディスク(またはディスクアレイの論理ドライブ1台のみ)だけを接続し てセットアップしてください。

起動メニューについて

EXPRESSBUILDERには2つの起動方法があります。起動方法によって表示されるメニュー や項目が異なります。

EXPRESSBUILDER CD-ROMからブート(起動)する

EXPRESSBUILDERをExpressワークステー ションのCD-ROMドライブにセットして起動 し、EXPRESSBUILDER内のシステムから起 動する方法です。この方法でExpressワーク ステーションを起動すると右に示す FEXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示 されます。



このメニューにある項目からExpressワーク ステーションをセットアップします。



Expressワークステーション以外のコンピュータおよびEXPRESSBUILDERが添付 されていたExpressワークステーション以外のExpress5800シリーズに使用しない でください。故障の原因となります。

EXPRESSBUILDERトップメニューについてはこの後の「EXPRESSBUILDERトップメ ニュー」を参照してください。

● Windowsが起動した後にEXPRESSBUILDERをセットする

Windows (Windows 95以降、または Windows NT4.0以降)が起動した後に、 EXPRESSBUILDERをCD-ROMドライブに セットするとメニューが表示されます(右図 参照)。表示されたメニューダイアログボッ クスは「マスターコントロールメニュー」と呼 びます。

マスターコントロールメニューについてはこ の後の「マスターコントロールメニュー」を参 照してください。



EXPRESSBUILDERトップメニュー

EXPRESSBUILDERトップメニューはハードウェアのセットアップおよびOS(オペレーティ ングシステム)のセットアップとインストールをするときに使用します。

起 動

次の手順に従ってEXPRESSBUILDERトップメニューを起動します。

- 1. 周辺装置、Expressワークステーションの順に電源をONにする。
- 2. ExpressワークステーションのCD-ROMドライブへCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をセットする。
- CD-ROMをセットしたら、リセットする(<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押す)か、電源を OFF/ONしてExpressワークステーションを再起動する。

CD-ROMからシステムが立ち上がり、EXPRESSBUILDERが起動します。

EXPRESSBUILDERが起動すると、以下のようなEXPRESSBUILDEトップメニューが現れ ます。



シームレスセットアップ

「シームレスセットアップ」はExpressワークステーションを再セットアップするときに選択 するメニューです。メニューを選択後、いくつかの設定項目を選択するだけで切れ目なく (シームレス で)、オペレーティングシステムのセットアップを行います。

- このメニューを使用するときは、ディスプレイ装置以外の周辺機器を接続しないでくだ さい。また、内蔵のハードディスクも購入時の状態(台数・接続)にしておいてください。
 - 「シームレスセットアップ」は最初からのセットアップであることを前提としているため、実行するとハードディスクの内容が失われることがあります。
 - セットアップを開始したら、指示があるまでセットアップパラメータFDを取り出さないでください。

ツールメニュー

ツールメニューは、EXPRESSBUILDER に収められている各種ユーティリティを 個別で起動し、オペレータが手動でセッ トアップを行います。より詳細に設定し たい場合などに使用してください。ま た、システム診断やサポートディスクの 作成を行う場合も、ツールメニューを使 用します。次にツールメニューにある項 目について説明します。

Express5800シリーズ EXPRESSBUILDER Ver3.xxx-x Copyright(C) NEC Corporation 2003
ツールメニュー	RAIDコントローラ:検出
RAID情報のセーブ/リストア	
システム情報の管理	
ンステム診断	
各種BIOS/FW のアップデート	
ヘルプ	
トップメニューに戻る	

● RAID情報のセーブ/リストア

このメニューはディスクミラーリングコントローラが接続されているとき表示されます。 ディスクアレイシステムのRAID情報をフロッピーディスクに保存または、フロッピー ディスクから復元することができます。

- RAID情報のセーブ

フロッピーディスクにRAID情報を保存します。フォーマット済みのフロッピーディ スクを用意してください。

- RAID情報のリストア

フロッピーディスクからRAID情報を復元します。「コンフィグレーション情報のセーブ」で作成したフロッピーディスクを用意してください。

● システム情報の管理

お客様の装置固有の情報や設定のバックアップ(退避)をします。バックアップをしてお かないと、ボードの修理や交換の際に装置固有の情報や設定を復旧できなくなります。



システム情報のバックアップの方法については、25ページで説明しています。なお、リ ストア(復旧)は操作を熟知した保守員以外は行わないでください。

● システム診断

本体装置上で各種テストを実行し、本体の機能および本体と拡張ボードなどとの接続を 検査します。システム診断を実行すると、本体装置に応じてシステムチェック用プログ ラムが起動されます。150ページを参照してシステムチェック用プログラムを操作して ください。

● サポートディスクの作成

サポートディスクの作成では、EXPRESSBUILDER内のユーティリティをフロッピー ディスクから起動するための起動用サポートディスクを作成します。なお、画面に表示 されたタイトルをフロッピーディスクのラベルへ書き込んでおくと、後々の管理が容易 です。

サポートディスクを作成するためのフロッピーディスクはお客様でご用意ください。

- Windows XP OEM-DISK for EXPRESSBUILDER

Windows XP Professionalをインストールするときに必要となるサポートディスク を作成します(「シームレスセットアップ」でインストールする場合は必要ありません)。

- Windows 2000 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER

Windows 2000のシステムを修復するとき(「RDISK.EXE」を使った修復作業です)に 必要となるサポートディスクです。

- ROM-DOS起動ディスク

ROM-DOSシステムの起動用サポートディスクを作成します。

● 各種BIOS/FWのアップデート

インターネットの「NEC 8番街」で配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」 を使用して、システムのBIOS/FW(ファームウェア)をアップデートすることができま す。「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」については、次のホームページに詳しい 説明があります。

[NEC 8番街]: http://nec8.com

各種BIOS/FWのアップデートを行う手順は配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」に含まれる「README.TXT」に記載されています。記載内容を確認した上で、記載内容に従ってアップデートを行ってください。「README.TXT」はWindows NTのメモ帳などで読むことができます。



BIOS/FWのアップデートプログラムの動作中は本体の電源をOFFにしないでくださ い。アップデート作業が途中で中断されるとシステムが起動できなくなります。

• ヘルプ

EXPRESSBUILDERの各種機能に関する説明を表示します。

トップメニューに戻る

EXPRESSBUILDERトップメニューを表示します。

マスターコントロールメニュー

Windows (Windows 95以降、またはWindows NT4.0以降)が動作しているコンピュータ上で添付のCD-ROMFEXPRESSBUILDER」をセットすると、「マスターコントロールメニュー」が自動的に起動します。



システムの状態によっては自動的に起動し ない場合があります。そのような場合は、 CD-ROM上の次のファイルをエクスプロー ラ等から実行してください。

¥MC¥1ST.EXE

マスターコントロールメニューからは、Windows上で動作する各種バンドルソフトウェア のインストールやオンラインドキュメントを参照することができます。



オンラインドキュメントの中には、PDF形式の文書で提供されているものもあります。こ のファイルを参照するには、あらかじめAdobeシステムズ社製のAcrobat Readerがインス トールされている必要があります。Acrobat Reader がインストールされていないときは、 はじめに[ソフトウェアのセットアップ]の[Acrobat Reader]を選択して、Acrobat Reader をインストールしておいてください。

マスターコントロールメニューの操作は、ウィンドウに表示されているそれぞれの項目をク リックするか、右クリックして現れるポップアップメニューを使用してください。また、一 部のメニュー項目は、メニューが動作しているシステム・権限で実行できないとき、グレイ アウト表示され選択できません。適切なシステム・権限で実行してください。



CD-ROMをドライブから取り出す前に、マスターコントロールメニューおよびメニューか ら起動されたオンラインドキュメント、各種ツールは終了させておいてください。

ExpressPicnic

「ExpressPicnic[®]」は、Expressワークステーションのセットアップで使用する「セットアップパラメータ FD」を作成するツールです。

EXPRESSBUILDERとExpressPicnicで作成したセットアップパラメータFDを使ってセットアップをする と、いくつかの確認のためのキー入力を除きOSのインストールやセットアップを自動で行えます。また、 再インストールのときに前回と同じ設定でインストールすることができます。「セットアップパラメータ FD」を作成して、EXPRESSBUILDERからExpressワークステーションをセットアップすることをお勧め します。



「セットアップパラメータFD」がなくてもWindows XP/2000をインストールすることはでき ます。また、「セットアップパラメータFD」は、EXPRESSBUILDERを使ったセットアップ の途中で修正・作成することもできます。

ExpressPicnicのインストール

セットアップパラメータFDを作成するためにWindows XP/2000またはWindows NT 3.51 以降、Windows 95/98/Meで動作しているコンピュータにExpressPicnicをインストール します。



ExpressPicnicはPC98-NXシリーズ・PC-9800シリーズ・PC-AT互換機で動作します。

Windows XP/2000 · Windows NT 4.0 · Windows 95/98/Me

Windows XP/2000、またはWindows NT 4.0、Windows 95/98/Meで動作しているコン ピュータの場合は次の手順でインストールします。



お使いになっているモデルによって画面に表示される内容が多少異なることがありますが、 同じ手順でセットアップすることができます。

- 1. OSを起動する。
- 添付のCD-ROMFEXPRESSBUILDERJをCD-ROMドライブにセットする。 マスターコントロールメニューが表示されます。

3. 画面上で右クリックするか、[ソフトウェ アのセットアップ]を左クリックする。

メニューが表示されます。

[ExpressPicnic]をクリックする。
 セットアップウィザードが起動します。



メッセージに従ってインストールを続け てください。





[ユーザの情報]ダイアログボックスの [シリアル番号]を入力する必要はあり ません。

インストールを完了したら[終了]をク リックし、「セットアップパラメータFD の作成」に進んでください。



Windows NT 3.51

Windows NT 3.51で動作しているコンピュータの場合は次の手順でインストールします。

- 1. Windows NT 3.51を起動する。
- 2. 添付のCD-ROM 「EXPRESSBUILDER」をコンピュータのCD-ROMドライブにセットする。
- 3. ファイルマネージャまたはコマンドプロンプトから、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」の 「¥WINNT¥PICNIC¥SETUP¥SETUP.EXE」を実行する。

セットアップウィザードが起動します。メッセージに従ってインストールを続けてください。インストールを完了したら、「セットアップパラメータFDの作成」に進んでください。

セットアップパラメータFDの作成

OSをインストールするために必要なセットアップ情報を設定し、「セットアップパラメータ FD」を作成します。以下の手順に従ってください。

ヒント

手順の中では、Trekkingコマンドをインストールしたときに指定したフォルダ名を 「ExpressPicnic」と仮定しています。

1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる。

<Windows XP/2000・Windows NT 4.0・Windows 95/98/Meの場合>

スタートメニューから[プログラム]ー [ExpressPicnic]ー[Trekking_Windows XP]または[Trekking_Windows 2000] をクリックする。

<Windows NT 3.51の場合>

プログラムマネージャの [ExpressPicnic]グループから [Trekking]アイコンをダブルクリックする。

 ○。

 2. [ファイル]メニューの[情報ファイルの新 規作成]をクリックする。

 ※ Windows 0.%7 型_

[ディスクの設定]ダイアログボックスが
表示されます。

	アクセザリ ケーム internet Explorer Outlook Express Windows Media Player ExpressPlonic *	۲ ب	n Trekking Windows2000
 ○ (秋米)(□) ○ (小り?(□)) ○ ファイル名を指定して実行(B)_ ○ 既定 (0.05/17)(□)_ ○ Windows (0.65 T(□)_) ○ Windows (0.65 T(□)_) 			

Trekking			X
情報7ァルの新規作成(N) Ctri+N			
日刷(P) Ctrl+P 印刷プレビュー(V) ブリンクの設定(P)	ic		
アフリケーションの終了公	s2000 - Wind	owsXP~	
	E may and		
		1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	六甲山牧場
	(C)NEC System Techn	nologies,Ltd.,NEC Corp	oration 2002
新規セットアッフや情報ファイルを作成			NUM

 各項目を設定し、[OK]をクリックする。
 [NEC 基本情報]ダイアログボックスな ど、セットアップ情報を設定するダイア ログボックスが順に表示されます。

ディスクの設定			×
OS種別 IIII	ws2000 Server	-	ОК
	OS言語 日7	本語 💆	キャンセル
ディスクの設定			^⊮7°
ArrayDisk			
RAIDの新規作			
接続ディスクのトー	タル数 3		
バックを構成するう	イスク数 🛛		
バックを構成するF	AID Raid5	7	
ライトモード ©	自動設定 C 手	動設定	
	ſ	_	

メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ]をクリックする。



[キャンセル]をクリックすると入力し た内容が消えてしまいます。

セットアップ情報の設定が完了すると、 [ファイル指定]ダイアログボックスが表示されます。

料情報 対象マシン	Express5900/xxx
インストールパス	WINNT
Service Pac	水 の適用
ーバーティション・	
● 新規バー	ティション 4095 MB (4095~999999MB)
C 既存のパ	
 全領域を 	所規作成
🔽 ファイルシス	ステムをNTFSへ変換

- [セットアップパラメータFD]チェック ボックスがオンになっていることを確認 し、[ファイル名]ボックスにセットアッ プ情報のファイル名を入力する。
- 1.44MBでフォーマット済のフロッピー ディスクをフロッピーディスクドライブ にセットし、[OK]をクリックする。



ソフトウェア編

「セットアップパラメータFD」が作成できました。「セットアップパラメータFD」はオペレー ティングシステムをインストールするときに使用します。ラベルを貼り大切に保管してくだ さい。

- 各項目の設定内容についてはヘルプを参照してください。
- 既存の情報ファイル(セットアップパラメータFD)を修正する場合は、ExpressPicnic ウィンドウの[情報ファイル修正]をクリックしてください。ヘルプを参照して情報ファ イルを修正してください。

追加アプリケーションのインストール

EXPRESSBUILDER CD-ROMでサポートしていないアプリケーションを追加でインストー ルする場合は、以下の手順に従って「セットアップパラメータFD」を作成してください。



追加でインストールするアプリケーションは、シームレスセットアップ対応されている必要 があります。

ディスクの設定 OS種別

ディスクの設定

ArrayDisk
 RAIDの新規作成
 接続ディスクのトータル数

バックを構成するディスク数

ライトモード ⑥ 自動設定

バックを構成するRAID

- 1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(126ページ参照)。
- 2. [ファイル]メニューの[情報ファイルの新 規作成]をクリックする。

[ディスクの設定]ダイアログボックスが 表示されます。



OS言語 日本語

Raid

○ 手動設定

OK

キャンセル

^⊮7°

- 各項目を設定し、[OK]をクリックする。
 [基本情報]ダイアログボックスなど、 セットアップ情報を設定するダイアログ ボックス順に表示されます。
- メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ]をクリックする。



[キャンセル]をクリックすると入力し た内容が消えてしまいます。

- 5. [アプリケーションの設定画面]が表示されたら、[追加アプリケーションのインストール]にチェックを入れる。
- [ファイル指定]ダイアログボックスが表示されたら、[セットアップパラメータFD]チェックボックスがオンになっていることを確認し、[ファイル名]ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。
- 1.44MBでフォーマット済のフロッピー ディスクをフロッピーディスクドライブ にセットし、[OK] をクリックする。

Global Array M	anager	-	EFFERENCE	-		
Power Console P	lus		詳細設定			
ArrayRecovery	Tool				 	
□ 自動クリーンアッ?	 プツール					
▶ エクスプレス通報	サービス				 	
- ユーザ/グループ登録	₫					
グループの作成	設定		1			
ユーザ作成	設定		j			
□ Update媒体の適用						
▼ 大容量記憶装置用0	EM-FDのji	箇用				
🔽 追加アプリケーション	のインスト	ール				

オプションの大容量記憶装置ドライバのインストール

シームレスセットアップに対応しているオプションの大容量記憶装置ドライバをインストー ルする場合は、以下の手順に従って「セットアップパラメータFD」を作成してください。



Windows XPでは本機能はサポートしていません。

- 1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(126ページ参照)。
- 2. [ファイル]メニューの[情報ファイルの新 規作成]をクリックする。

[ディスクの設定]ダイアログボックスが 表示されます。



- 各項目を設定し、[OK]をクリックする。
 [基本情報]ダイアログボックスなど、 セットアップ情報を設定するダイアログ ボックスが順に表示されます。
- メッセージに従ってダイアログボックスの各項目を設定し、[次へ]をクリックする。



[キャンセル]をクリックすると入力し た内容が消えてしまいます。

- [アプリケーションの設定]が表示されたら、[大容量記憶装置用OEM-FDの適用] にチェックを入れる。
- [ファイル指定]ダイアログボックスが表示されたら、[セットアップパラメータFD]チェックボックスがオンになっていることを確認し、[ファイル名]ボックスにセットアップ情報のファイル名を入力する。
- 1.44MBでフォーマット済みのフロッ ピーディスクをフロッピーディスクドラ イブにセットし、[OK] をクリックする。



アプリケーションの設定	x
アプリケーションの設定	
▼ ESMPRO 詳細設定	
☐ Global Array Manager 詳細設定	
F Power Console Plus 詳細設定	
☐ ArrayRecoveryTool	
「自動クリーンアップツール」	
▶ エクスプレス遺報サービス	
ユーザ/グループ登録	
グループの作成 設定	
ユーザ作成 設定	
Updatest、の適用	
▼ 大容量記! 表置用OEM-FDの適用	
▶ 追加アー ケーションのインストール	
$\mathbf{\nabla}$	
< 戻る(B) 完了 キャンセル ヘ	17

コンピュータからの情報採取

ExpressPicnicが、起動しているマシンのセットアップ情報を自動的に採取し、セットアップ情報ファイルを作成します(Windows XPは未サポート)。



- 1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(126ページ参照)。
- 2. [オプション]メニューの[現稼動機からの情報採取]をクリックする。

取得後は、確認/修正画面に移ります。初期値が、取得したデータになっていることを除けば「情報ファイルの新規作成」あるいは「情報ファイル修正」と同じです。

大量インストール

ベースとなるセットアップ情報ファイルを指定し、マシンごとに変更する必要のあるパラ メータのみ修正して、複数のセットアップ情報ファイルを作成します(Windows XPは未サ ポート)。

- 1. ExpressPicnicウィンドウを表示させる(126ページ参照)。
- 2. [オプション]メニューの[大量インストールのアシスト]をクリックする。
- [ファイルを開く]画面でベースとなるセットアップ情報ファイルを選択する。
 ベースとなるセットアップ情報ファイルの設定値がリストの一番上の欄に表示されます。
- 4. [追加]をクリックする。

大	量インストー	ルアシスト				×
	77/11名	コンドシュータ名	フロタウトキー	使用者名	IPアト・レス	UPER
	d.tre	hef	/ 8/ // 1	efhf	DHCP	
						追加
						削除
						×-
						<u></u>
						880" 7
						1400
B	能田惜幸履言会	定				×
	+7011-701	がまポファイ	白尾索			
		ン (A+18 ンア)	17/20			UK
	ļ					キャンセル
	コンピュー	·9名				
	Γ					YP7
	/# EP #/					
	使用者					
	1					
	ブロダクト	キー				
	Г					
	1					
	DHOP	を使用する				
	IP7	гкид Г				
-						

- ベースとなるセットアップ情報ファイル から変更するパラメータを設定する。
- [OK]をクリックする。
 リストに追加した情報が表示されます。
- 7. ファイル名を選択し、[FD作成]をクリッ クする。

選択したファイル名のセットアップパラ メータFDを作成します。

ソフトウェア編

Express本体用バンドルソフトウェア

Expressワークステーションにバンドルされているソフトウェアの紹介およびインストールの方法につい て簡単に説明します。詳細はオンラインドキュメントをご覧ください。

ESMPRO/ServerAgent(Windows版)

ESMPRO/ServerAgent(Windows版)は、Windows XP/2000で運用しているExpress ワークステーションにインストールする本体監視用アプリケーションです。 ここでは個別にインストールする場合に知っておいていただきたい注意事項とインストール の手順を説明します。



運用上の注意事項については、オンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgent (Windows版)インストレーションガイド」に記載しています。ご覧ください。

インストール前の準備

ESMPRO/ServerAgent (Windows版)を動作させるためには対象OSのTCP/IPとTCP/IP関 連コンポーネントのSNMPの設定が必要です。

ネットワークサービスの設定

プロトコルはTCP/IPを使用してください。TCP/IPの設定についてはスタートメニューから 起動するヘルプを参照してください。

SNMPサービスの設定

コミュニティ名に「public」、トラップ送信先に送信先IPアドレスを使いします。ESMPRO/ ServerManager側の設定で受信するトラップのコミュニティをデフォルトの「public」から変 更した場合は、ESMPRO/ServerManager側で新しく設定したコミュニティ名と同じ名前を 入力します。

インストール

ESMPRO/ServerAgent (Windows版) のインス トールは添付のCD-ROM 「EXPRESSBUILDER」を 使用します。

Expressワークステーション上のWindows XP/ 2000が起動した後、Autorunで表示されるメ ニューから[ESMPRO]ー[ESMPRO/ ServerAgent]の順にクリックしてください。以降 はダイアログボックス中のメッセージに従ってイ ンストールしてください。





ネットワーク上のCD-ROMドライブから実行する場合は、ネットワークドライブの割り当て を行った後、そのドライブから起動してください。エクスプローラのネットワークコン ピュータからは起動しないでください。

[L')

アップデートインストールについて ESMPRO/ServerAgentがすでにインストールされている場合は、次のメッセージが表示さ れます。

ESMPRO/ServerAgentが既にインストールされています。

メッセージに従って処理してください。

インストール後の確認

ESMPRO/ServerAgent(Windows版)をインストールした後に次の手順で正しくインストールされていることを確認してください。

- 1. Expressワークステーションを再起動する。
- 2. イベントログを開く。
- 3. イベントログにESMPRO/ServerAgentの監視サービスに関するエラーが登録されていないこと を確認する。

エラーが登録されている場合は、正しくインストールされていません。もう一度はじめからイン ストールし直してください。

テープ監視ツール

テープ監視ツールは、Expressワークステーションに接続されたテープドライブならびに使用しているテープメディアの状態を監視するユーティリティです。

ヘッドの汚れや不良テープの使用などによるバックアップファイルの消失やバックアップの 失敗などを防止するために、テープドライブを搭載している装置にはこのユーティリティを インストールすることをお勧めします。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にテープ監視ツールがあらかじめインストールされている場合もあ ります。インストール済みのテープ監視ツールのサービスを次のように設定してください。 サービスの設定は[コントロールパネル]の[サービス]をダブルクリックすると起動します。

- 選択するサービス名: TapeAlertChecker
- スタートアップの種類: 自動
- ログオン: システムアカウント
 [デスクトップとの対話をサービスに許可]にチェック

サービスに[TapeAlertChecker]がない場合は、装置にインストールされていません。次の 「手動インストール(新規インストール)」を参照してインストールしてください。

手動インストール(新規インストール)

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。詳し くはオンラインドキュメントの「テープ監視ツールセットアップガイド」をご覧ください。オ ンラインドキュメントは、添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」の次のディレクトリに PDFファイルで格納されています。

CD-ROMドライブ:¥TpTool¥SG_TP6.pdf

動作環境

ハードウェア

- インストールする装置
 Express5800/50、100、600シリーズ本体
- メモリ 500KB以上
- ハードディスクの空き容量 2.2MB以上

ソフトウェア

- オペレーティングシステム
 - Microsoft® Windows NT® 4.0日本語版(Service Pack 5以降)
 - Microsoft® Windows® 2000 日本語版

Microsoft® Windows® XPはサポートしていません。

- アプリケーション
 - ARCserve J6.0 for Windows NT (SP3)(全エディション)
 - ARCserve J6.5 for Windows NT(全エディション、Patch07が必要)
 - ARCservelT J6.61 for Windows NT(全エディション)
 - ARCserve 2000 (SP2)(全エディション)
 - BackupExec for Windows NT Ver.7.3
 - BackupExec for Windows NT Ver.8.5
 - NTBackup(Windows NT標準装備のバックアップツール)
 - #BKUP

監視対象装置

テープ監視ツールで監視できるテープドライブは次のとおりです(2002年9月現在)。

• 内	截/外付AIT	N8151-28/-34/-34A/-41/-41A/-44/-46、 N8551-19/-28/-34、N8560-16
• 内/	■〈外付AII集合型	N8151-29/-36、N8551-20/-29/-36、 N8560-17
• 内河	蔵/外付DAT(DDS3)	N8151-12BC、N8551-12/-12A/-12BC、 N8560-12/-12AC
• 内河	蔵/外付DAT集合型(DDS3)	N8151-13AC、N8551-13/-13AC、 N8560-13/-13AC
• 内花	截TRAVAN	N8551-21
• 外	付TRAVAN集合型	N8560-19
• 内花	截/外付DAT(DDS4)	N8151-26/-43/-45、N8551-26、N8560-22
• 内河	蔵/外付DAT集合型(DDS4)	N8151-27、N8551-27、N8560-23
• 内河	截SLOT	N8151-38
• 内河	蔵LTO	N8151-37/-40
• 外	付LTO	N8160-39

対象ドライブとバックアップソフトの対応につきましてはNECのWeb情報ページにある 「NEC 8番街(http://nec8.com/)」の「技術サポート」-「技術情報(Express5800)」-「テクニカルガイド」-「Express5800/100シリーズテクニカルガイド」にあります。バック アップ装置<バックアップ装置対応ソフトウェア①WindowsNT/2000>を確認してください。

インストール手順

添付のCD-ROM 「EXPRESSBUILDER」の次のディレクトリにある「Setup.exe」をエクスプ ローラなどから起動してください。

CD-ROMドライブ:¥TpTool¥setup.exe

以降は画面に表示されるメッセージに従ってください。詳しくはオンラインドキュメントで 説明しています。

インストールの完了後、サービスが動作していることを確認してください。「カスタムイン ストールモデルでのセットアップ」の説明を参照してください。

監視についての詳細な設定は、iniファイルを編集することで変更できます。iniファイルは「C: ¥Program Files¥TapeAlertChecker¥Ctrl.ini」です(デフォルトの設定でインストールした場合)。設定の詳細についてはオンラインドキュメントをご覧ください。

FastCheck

FastCheckは、本装置がサポートするIDEタイプのオプションのディスクミラーリングボードを管理・監視するソフトウェアです。

ディスクミラーリングコントローラに接続したハードディスク(アレイディスク)の監視や状態の表示をしたり、万一、異常が起きたときにビープ音やポップアップメッセージの表示な どで通知したりします。

また、ESMPRO/ServerAgent(Ver.3.4以降)との連携により、異常が起きたときに ESMPRO/ServerManagerをインストールしている管理PCにアラート通報やALIVE通報を することもできます。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にFastCheckがあらかじめインストールされている場合もあります。 FastCheckがインストール済みのExpressワークステーションに後からESMPRO/ ServerAgentをインストールした場合は、FastCheckを一度、アンインストールしてからイ ンストールし直してください。

シームレスセットアップを使ったセットアップ

FastCheckは添付のCD-ROM[EXPRESSBUILDER]に収められている自動インストール ツール[シームレスセットアップ]を使ってインストールできます。

シームレスセットアップ中にアプリケーションを設定するダイアログボックスが表示されま す。ここで「FastCheck」を選択してください。

シームレスセットアップでFastCheckをインストールした場合で、後からESMPRO/ ServerAgentをインストールした場合は、FastCheckを一度、アンインストールしてからイ ンストールし直してください。

確認事項

インストール済みのFastCheckについて次の点を確認してください。

- [スタート]メニューの[プログラム]に[Promise]という名前のフォルダが作成されてい ることを確認する。
- Windows XP/2000の起動後のタスクトレーに、FastCheckのアイコン()が表示 されていることを確認する(FastCheckはWindows XP/2000常駐型のアプリケーショ ンです)。
- コントロールパネルのサービスで「Promise FastTrak Service」が開始されていることを 確認する。
- FastCheckが起動することを確認する。

[Promise]フォルダの中から[Fasttrak]-[FastCheck Monitoring Utility]の順に選択するか、タスクトレーのFastCheckアイコン(😭)をダブルクリックすると起動します。

● FastCheckを起動後、[オプション]-[通知]-[NTシステムイベントログの使用]が チェックされていること(デフォルト値です)を確認する。



ESMPRO/ServerManagerをインストールした管理PCにディスクミラーリングコントローラに関するアラート通報やALIVE通報をする場合は、「Promise Fast Trak Log Service」が開始されており、FastCheckのオプション設定[NTシステムイベントログの使用]がチェックされていなければなりません。

パスワードの設定

セキュリティ上、FastCheckを起動する際にパスワードによる確認ができるよう、パスワードを登録してください。パスワードはFastCheckを起動後、[オプション]ー[パスワードを 使用可能にする]を選択すると表示される設定画面で設定できます。

運用上の注意

FastCheckをインストールして運用する上で特に注意していただきたい点について説明しま す。FastCheckで表示される画面についての説明やその他の注意事項については、オンライ ンドキュメント「FastCheckユーザーズガイド」を参照してください。

 ESMPRO/ServerAgentがインストールされているExpressワークステーションに FastCheckをインストールすることをお勧めします。ESMPROと連携したさまざまな 管理・監視機能を利用することができます(ESMPROがインストールされていなくて も、FastCheckの動作には支障がありません)。

ただし、ESMPROはVer.3.4以降のバージョンを使用してください。

- FastCheckの設定を変更した場合は、ダイアログボックス内にある[適用]ボタンを クリックして情報を更新してから終了してください。
- FastCheckの以下のオプションは規定値から変更しないでください。
 - [NT システムイベントログの使用] (規定値: チェック)
 - [書き込みキャッシュを使用可能にする] (規定値: チェック)
 - [ホットスペア/自動リビルドを禁じる] (規定値: チェックなし)
- ディスクのリビルドやシンクロナイズ(整合性の確認)の間もアクセスすることはできますが、処理時間が長くなる場合があります。
- ESMPROからは、ディスクミラーリングコントローラで制御されているハードディスクは、1台のドライブとして認識されます。また、このディスクミラーリングコントローラはディスクアレイではなく、「SCSIコントローラ」として管理されます。

新規インストール

FastCheckを新規にインストールする場合(または再インストールする場合)は、オンラインドキュメント「FastCheckユーザーズガイド」を参照してください。

エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスに登録することにより、システムに発生する障害情報(予防保守 情報含む)を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報することができます。 本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知したり、障害発生時に迅速 に保守を行ったりすることができます。

また、お客様のワークステーション上で動作するエクスプレス通報サービスと、クライアント上で動作するシステム監視サービス(DMITOOL)を連携させることでシステムを安定に稼働させることができる、クライアント/サーバ型の保守サービス(PC通報連携機能)を提供しています。

インストール済みのエクスプレス通報サービスのセットアップ

購入時にインストール済みのエクスプレス通報サービスはまだ無効になっております。必要 な契約を行い、通報開局FDを入手してから、次の操作を行うとエクスプレス通報サービス は有効になります。エクスプレス通報サービス有効後はEXPRESSBUILDER内にあるオンラ インドキュメント「エクスプレス通報サービスインストレーションガイド」を参照して設定し てください。

セットアップに必要な契約

エクスプレス通報サービスを有効にするには、以下の契約等が必要となりますので、あらか じめ準備してください。

● 本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約

本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済 みでないと、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細について は、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

● 通報開局FD

契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FD が到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスを有効にする操作

次の手順で購入時にインストール済みのエクスプレス通報サービスの機能を有効にします。

- 1. [コントロールパネル]の[ESMPRO/ServerAgent]を選択する。
- [全般]タブの[通報の設定]をクリックする。
 アラートマネージャ設定ツールが起動します。
- [ツール]メニューの[エクスプレス通報サービス]、[サーバ]を選択する。
 [エクスプレス通報サービスセットアップユーティリティ]が起動します。
- 4. 通報開局FDをフロッピーディスクドライブにセットし、通報開局FDを読み込む。 エクスプレス通報サービスが有効となります。

手動インストール(新規インストール)

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。

エクスプレス通報サービスのセットアップ環境

エクスプレス通報サービスをセットアップするためには、以下の環境が必要です。

ハードウェア

- メモリ
 18.0MB以上
- ハードディスクの空き容量 30.0MB以上
- メールサーバ 電子メール経由の通報を使用する場合、SMTPをサポートしているメールサーバが必要 です。

ソフトウェア

- 添付のCD-ROM[EXPRESSBUILDER]内のESMPRO/ServerAgent
- 上記、ESMPRO/ServerAgentがサポートするOS
- マネージャ経由の通報を使用する場合は、マネージャ側に以下の環境が必要です。
 ESMPRO/ServerManager* + ESMPRO/AlertManager Ver.3.4以降
 - * 監視対象となるサーバにインストールされているESMPRO/ServerAgentのバー ジョン以上を使用してください。
 - (例) 監視対象となるサーバにインストールされているESMPRO/ServerAgentの パージョン3.8の場合、パージョンが3.8以上のESMPRO/ServerManagerが 必要です。

セットアップに必要な契約

セットアップを行うには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

● 本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約

本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済 みでないと、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細について は、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

● 通報開局FD

契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FD が到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスのセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。

PC通報連携機能

PC通報連携機能は、クライアントで発生した障害の情報を電子メールやモデム経由で保守 センターに自動通報するサービスです。このサービスを使用することにより、クライアント の障害を事前に察知したり、障害発生時、すみやかに保守することができます。

PC通報連携機能のセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。

また、別途PC通報連携機能での契約が必要となります。お買い求めの販売店、または保守 サービス会社にお問い合わせください。

PowerChute *plus* Ver.5.11J/5.2J

BTO(ビルド・トゥ・オーダー)でインストールされるPowerChute *plus* Ver.5.11J/5.2Jに ついて説明します。



ビルド・トゥ・オーダーで指定されたバンドルソフトウェア、あるいはオーダーされたソフ トウェアです。なお、EXPRESSBUILDERには含まれていません。

インストール済みのPowerChute plusのセットアップ

Expressワークステーションのモデルの中には出荷時に「PowerChute *plus*」がインストール 済みの場合があります。ただし、PowerChute *plus*はデフォルト値の状態でインストール されています。

ここで示す手順に従ってお客様のご使用環境に合わせた状態にセットアップしてください。

PowerChute plusサービス(UPS-APC PowerChute plus Service)の起動

[コントロールパネル]の[サービス]を開き、[UPS-APC PowerChuteplus Service]を開始 してください。

すでに、[UPS-APC PowerChuteplus Service]が開始されている場合はそのままでかまい ません。[コントロールパネル]を閉じてください。

動作確認

UPS-APC PowerChute *plus* Serviceが起動後、約1分以上経過してから次の方法で動作を 確認します。

動作確認は、「確認1」、「確認2」の両方とも行ってください。「確認1」、「確認2」の両方が「正 常」な場合は、動作に問題ありません。この後の「設定変更」に示す処理を行う必要はありま せん。

■ 確認1 イベントビューアによる確認

Windowsの「イベントビューア」でPowerChute *plus*が正常に起動していることを確認してください。

- 1. [イベントビューア]を起動する。
- 2. [イベントビューア]のメニューバーから[ログ]を選択し、[システム]を選ぶ。
- 3. 上記により表示されたイベントの中から[ソース]名が「UPS」のものを選ぶ。
- 4. イベントの[詳細]を表示し、以下のイベントの[説明]があることを確認する。
 - [正常] UPSとの通信が確立しました。
 - [異常] UPSとの通信が確立できません。
 - このイベントが存在した場合、この後の「設定変更」を参照してPowerChute *plus*の設 定を変更してください。

■確認2 PowerChute plusのGUIによる確認

「確認1」で「正常」を確認した後、GUIでUPSの情報が正しく表示されていることを確認してください。

- [スタート]メニューの[プログラム] [PowerChutePLUS] [PowerChutePLUS]を起動する。
 起動方法の詳細はPowerChute *plusの*「インストールガイド」を参照してください。
- 2. [PowerChutePLUS]のメイン画面(チャート)でUPSの情報が表示されていることを確認する。
 - [正常] データフィールドエリアの「UPS出力」、「最小電圧」、「最大電圧」、「UPS温度」、「出力 周波数」などが表示される。
 - [異常] UPS情報の「UPS出力」、「最小電圧」、「最大電圧」、「UPS温度」、「出力周波数」などが グレーアウトで表示されている。 この後の「設定変更」を参照してPowerChute *plus*の設定を変更してください。

設定変更

「動作確認」の「確認1」、または「確認2」で「異常」だった場合は、次の設定内容を確認して設定 を変更してください。

- [スタート]メニューの[プログラム]-[PowerChuteplus]-[PowerChuteplus]を起動する。
 起動方法の詳細は、PowerChute *plusの*「オンラインヘルプ」、またはPowerChute *plus*に添付の「ユーザーズガイド」を参照してください。
- 2. [PowerChuteplus]のメニューバーより、[構成]ー[通信パラメータ]を選択し、下記の設定画面 を表示し、各設定内容を確認する。

通信シグナルが[スマー トシグナリング]である ことを確認する。	通信パラメージ -UPS パ ⁶ ラメータ C シッンア ⁹ ル、シク ^{**} ナリンク [*] で スマート シク ^{**} ナリンク [*]	通信术-+ COM1		コンピュータとUPSの通信 を行うCOMポート番号を正 しく設定する。
	ンザン パラメータ C パルス C トーン	通信ポト COM3 ぜム初期化文字列 ボーレト 2400	•	
	-SMTP メール SMTP サーバ名 SMTP アカウント名 SMTP ドンイン名	+p>tUL		

- 3. 正しく設定した後、[OK]をクリックし、「PowerChuteplus」のメニューバーより、[システム]-[別のサーバを監視]を選択し、再度監視するサーバを選択する。
- 4. 前ページの動作確認をする。

新規インストール

PowerChute *plus*の新規インストール(再インストール)については、PowerChute *plus*に 添付の「インストールガイド」を参照してください。

管理PC用バンドルソフトウェア

Expressワークステーションをネットワーク上から管理するための「管理PC」にインストールするバンドル ソフトウェアとして「ESMPRO/ServerManager」がEXPRESSBUILDERの中に入っています。

ESMPRO/ServerAgentがインストールされたコンピュータをネットワーク上の管理PCから監視・管理 するには、本装置にバンドルされているESMPRO/ServerManagerをお使いください。

管理PCへのインストール方法や設定の詳細についてはオンラインドキュメント、またはESMPROのオン ラインヘルプをご覧ください。



運用上の注意事項については、オンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManagerインストレーション ガイド」に記載しています。ご覧ください。

~Memo~